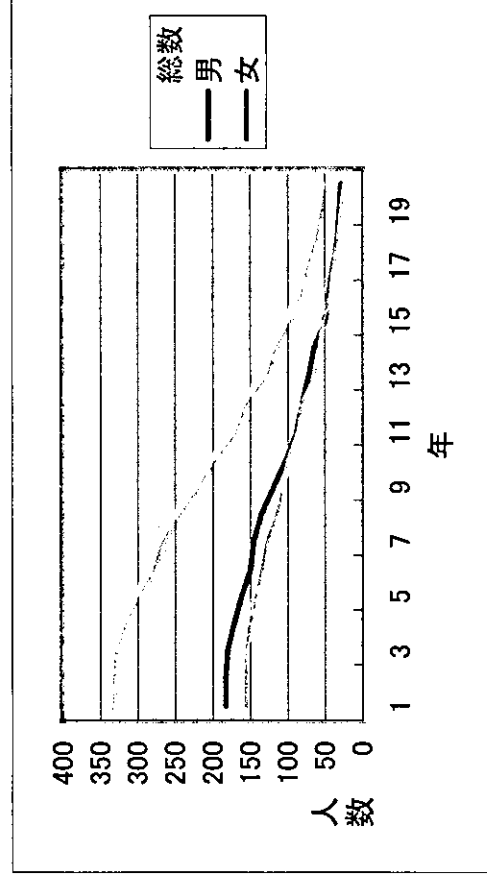


経年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	25	30
年	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		
総数	338	338	336	322	304	284	273	249	225	202	174	162	134	122	103	87	79	67	60	53	28	17
男	183	183	181	172	162	150	146	135	119	102	88	81	72	65	50	45	40	34	31	29	15	7
女	155	155	155	150	142	134	127	114	106	100	86	81	62	57	53	42	39	33	29	24	13	10

## 沖縄愛楽園における入所者数の推移予測



# 沖 縄 愛 楽 園

経年別入所者数(人)

年	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024	2029	2034
経年	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	25	30
総数	338	338	322	284	249	202	162	122	87	67	53	28	17
男	183	183	172	150	135	102	81	65	45	34	29	15	7
女	155	155	150	134	114	100	81	57	42	29	24	13	10

経年別入所者年齢分布(%)

年	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022	2024	2029	2034
90～	6.8	13.31	13.98	9.51	6.02	6.44	3.7	0	0	0	0		
85～89	10.06	13.02	15.84	20.07	27.31	23.27	23.46	19.67	20.09	22.39	16.98		
80～84	13.91	19.82	23.91	24.3	22.49	27.23	32.1	39.34	28.24	22.39	24.53		
75～79	21.6	18.93	15.53	20.27	21.29	18.32	14.81	13.11	17.24	19.4	26.42		
70～74	17.16	15.38	14.6	20.56	8.03	9.41	9.88	9.02	14.94	22.39	26.42		
65～69	14.2	7.1	5.28	5.28	5.22	5.94	8.64	11.48	13.79	11.94	5.66		
60～64	6.21	4.73	3.42	4.93	5.62	7.43	6.79	6.56	3.45	1.49	0		
～59	14.91	7.69	7.45	5.28	4.02	1.98	0.62	0.82	1.15	0	0		
平均年齢	75.1	75.03	77.14	76.8	78.15	78.69	79.34	78.51	79.14	78.35	78.1		

厚生労働科学研究費補助金（特別研究事業）  
（分担）研究報告書

国立療養所 宮古南静園の現状と将来の対策に関する研究  
（分担）研究者 比嘉 賀雄 国立療養所 宮古南静園 園長

研究要旨

国立療養所 宮古南静園において、新患者の入所や元患者の再入所がほとんど無いため、入所者数の増加はおこらず、又社会復帰者も極めて少数である。

一方入所者の高齢化に伴い死亡退園による減少が継続しており、この10年の年間平均死亡退園者数は5.2人となっている。

政府は、入所者の医療と福祉について最後まで責任を持つ方針であり、入所者の多くは統廃合を行うことなく、当園で終生を送ることを希望している。従って入所者の人数、年齢構成、健康状態、生活態度等の時間的な経過と共に対応条件が変化すると予測されるため、その時点に応じた対策を立てなければならない。

A. 研究目的

宮古南静園における現状を分析すると共に将来像を予測し、その対策内容を提示して、当園のハンセン病対策に反映させることを目的とする。

B. 研究方法

この命題に対して以下の研究をおこなった。入所者数の推移と定員職員数の推移を年度毎に比較検討し、課題となる事項を明らかにする。

当園の入所者数の推移（「厚生指標・臨時増刊号、国民衛生の動向」2004年、第51巻、第9号」の第20表に基づく）と当園の定員職員数の推移（現在の職員の定員数に基づく）を

比較検討した。

（倫理面への配慮）

1. データ等の収集や分析にあたっては、個人を特定できないように、記号と数字による表記にする。
2. 分析の集団は、施設の単位として行う。個人を単位とする調査や分析は行わない。

C. 研究結果

平成16年度入所者数121、定員職員数120とほぼ拮抗しているが、平成20年度には入所者94、定員職員数96と共に100を割始め、平成28年度には入所者数が44と50を割り、それより少し遅れて定員職員数が平

成31年度に47となり50を割る。  
その後入所者数の減が急速になり、平成39年度には9と1桁台になる。定員職員数の減はそれより少し遅れて平成46年度に8と1桁台になる。

#### D. 考察

平成16年度に入所者数139と同規模の入所者数の国立駿河療養所でも7年後の平成23年度には94と100を割ると予想される。

又現在入所者数69の国立療養所奄美和光園では自治会活動も思うようにまかせない事態になっている。

この事から当園の将来構想は可及的速やかに対策を立てる必要がある。

#### E. 結論

当園の入所者数の推移と定員職員数の推移を比較検討した結果、入所者数が100を割らない前に、自治会としての組織活動が出来る時に将来構想を自治会と話しあって立てる必要がある。

# 国立療養所宮古南静園

定員職員数の推移

年度	入所者数	定員職員数
16	121	120
17	114	120
18	107	113
19	100	110
20	94	96
21	87	91
22	80	82
23	73	76
24	67	66
25	61	58
26	55	58
27	50	58
28	44	58
29	40	56
30	36	52
31	31	47
32	28	42
33	24	39
34	21	34
35	18	28
36	15	25
37	13	22
38	11	17
39	9	15
40	7	15
41	6	14
42	5	12
計	5	12

入所者数と定員職員数の推移

